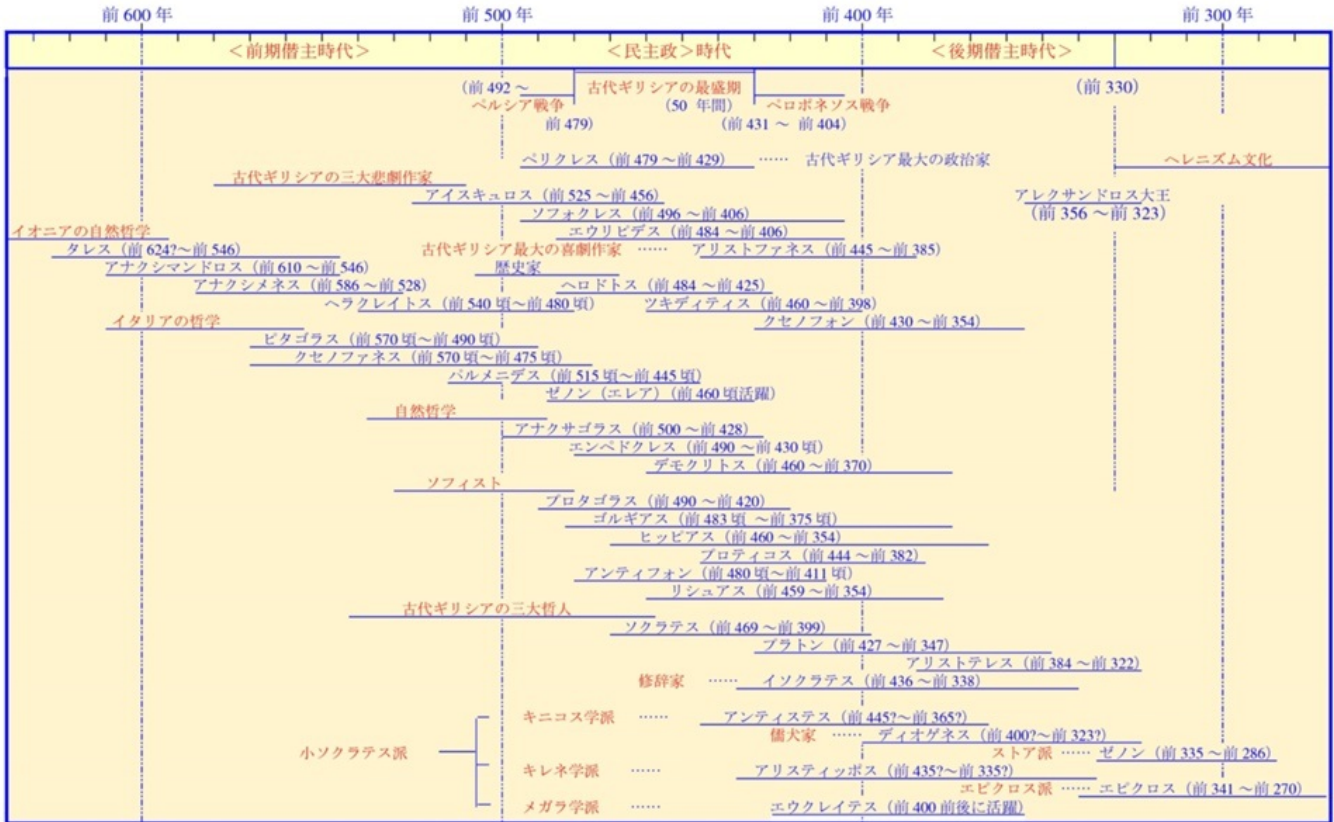


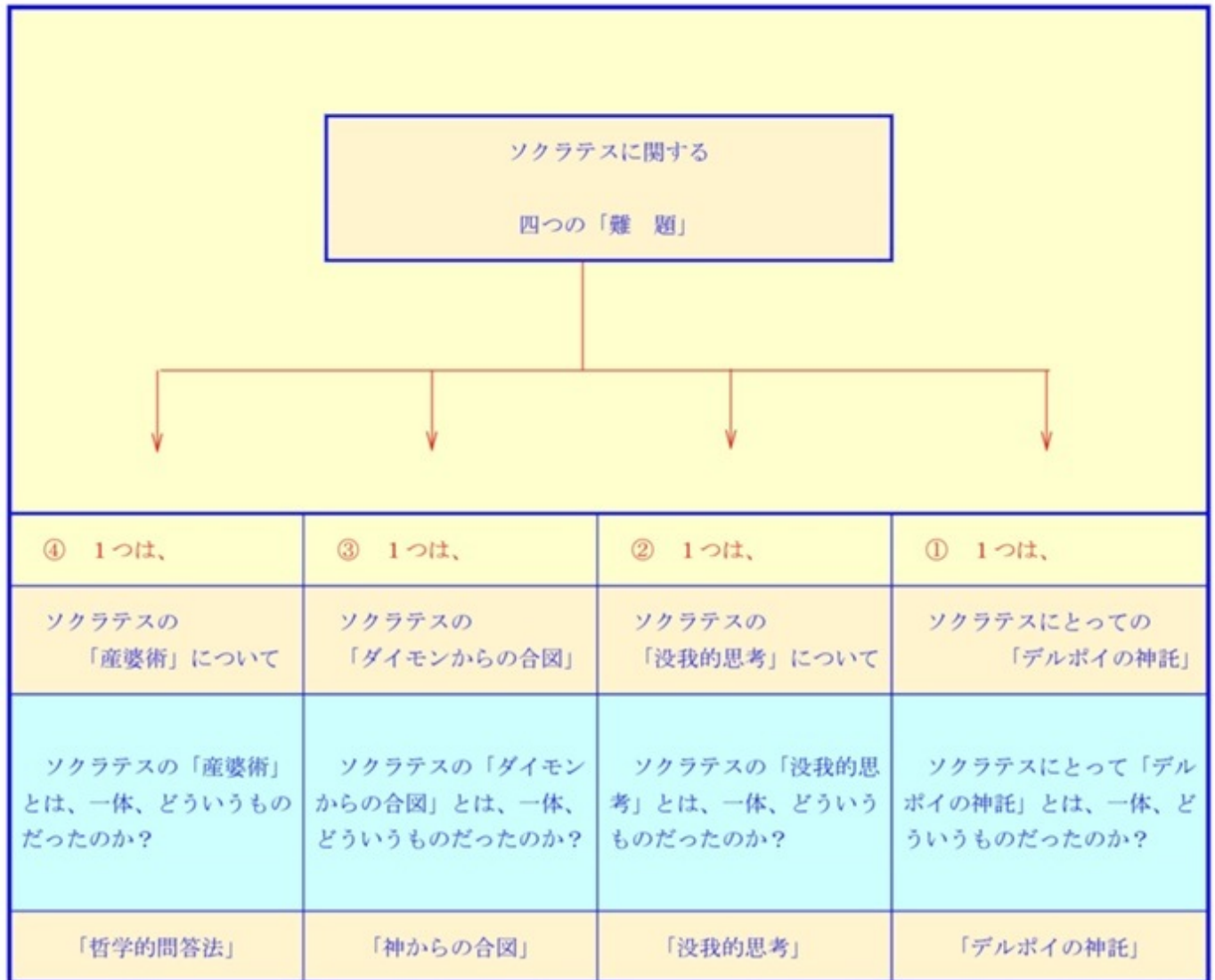


ソクラテスとプラトンに関する基礎データ図表



如月翔悟 (paidon)





* ソクラテスを真に理解するためには、この「四つの難題」が真に解明されなければならない。

プラトンにとっての師ソクラテスに関する「三つの難題」。

③ 1つは、

哲学の定義

ソクラテスが実際に行っていたあの「対話（吟味）活動」とは、いったい何だったのか。それを徹底的に考えて解明することになる。

② 1つは、

生死の問題

ソクラテスの生き方また死に方には、いったいどういう意味が秘められていたのか。それを徹底的に考えて解明することになる。

① 1つは、

善美の問題

ソクラテスが人間にとって最も大事なものとして、いつも考えていたもの。その「善美の問題」を徹底的に考えて解明することになる。

「イデア論」を用いて、説明（解明）をする。

③

触保に たを一
れつ恒、観な哲
るも常哲てる学
この不学取も的
と八変者れの間
のイなとる八答
でデあはもイ法
きアリ、のデこ
るV方つ。アそ
人にをねま V、

主 著

『国 家』

②

魂の不死の証明

『パイドン』

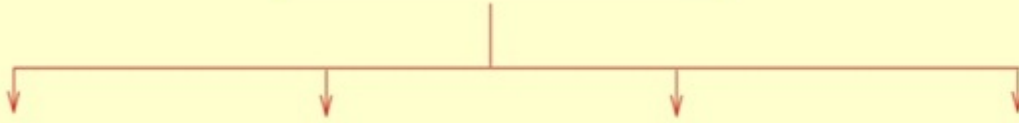
①

善のイデア
美のイデア

という形で説明をする。

『饗宴』
『国 家』

プラトン自身にとって
の「大きな問題」。



④ 一つは、

宇宙（自然）観	
有神論 を 唱える	当時の 無神論 に 反対

③ 一つは、

魂の定義と輪廻
輪まにりの分魂 廻たあ、でをと を魂つ物き動は 繰はた体るか自 り不もよ動す分 返死のりでこで すで。先あと自

② 一つは、

イデア論の再考
イ デ ア 論 の 完 成

① 一つは、

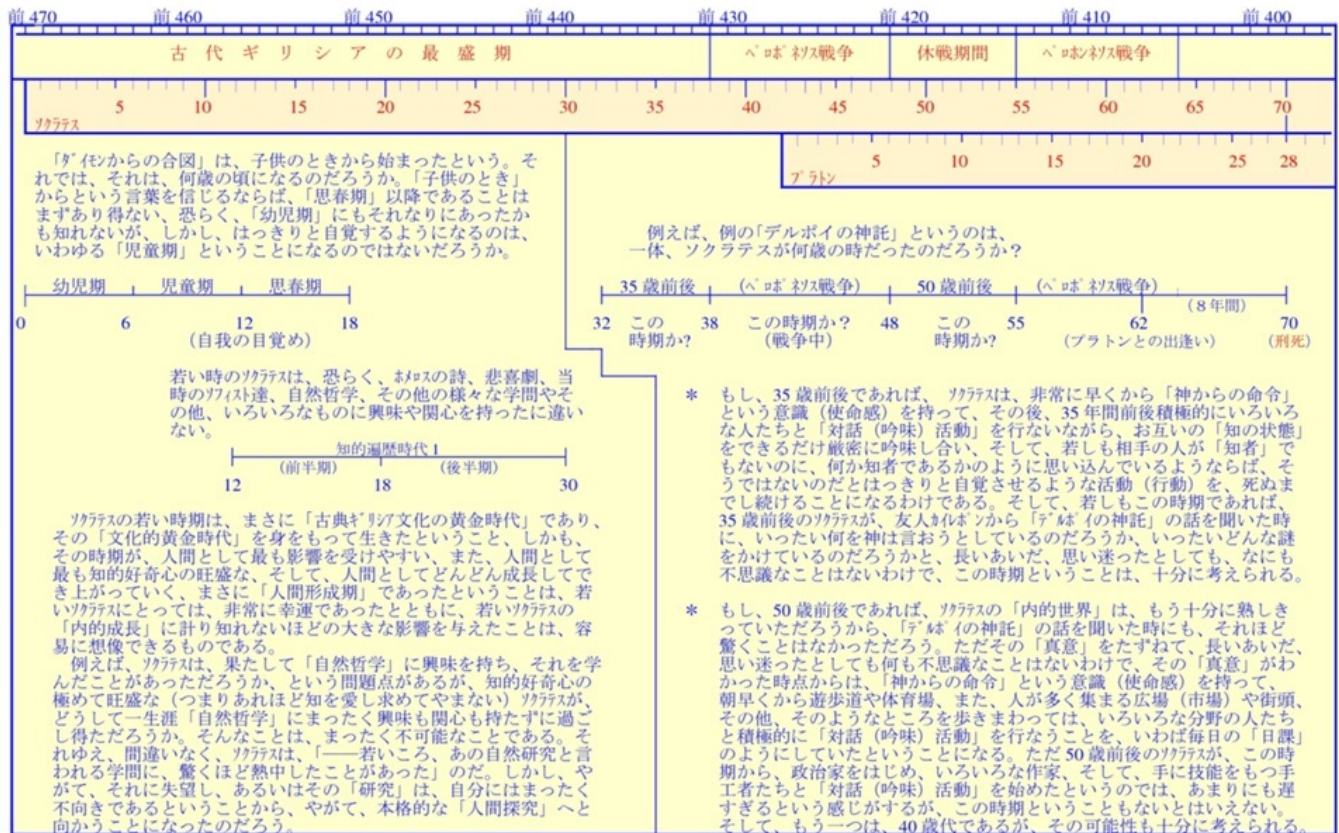
政治の問題	
理想の 政治 家	理想の 国 家

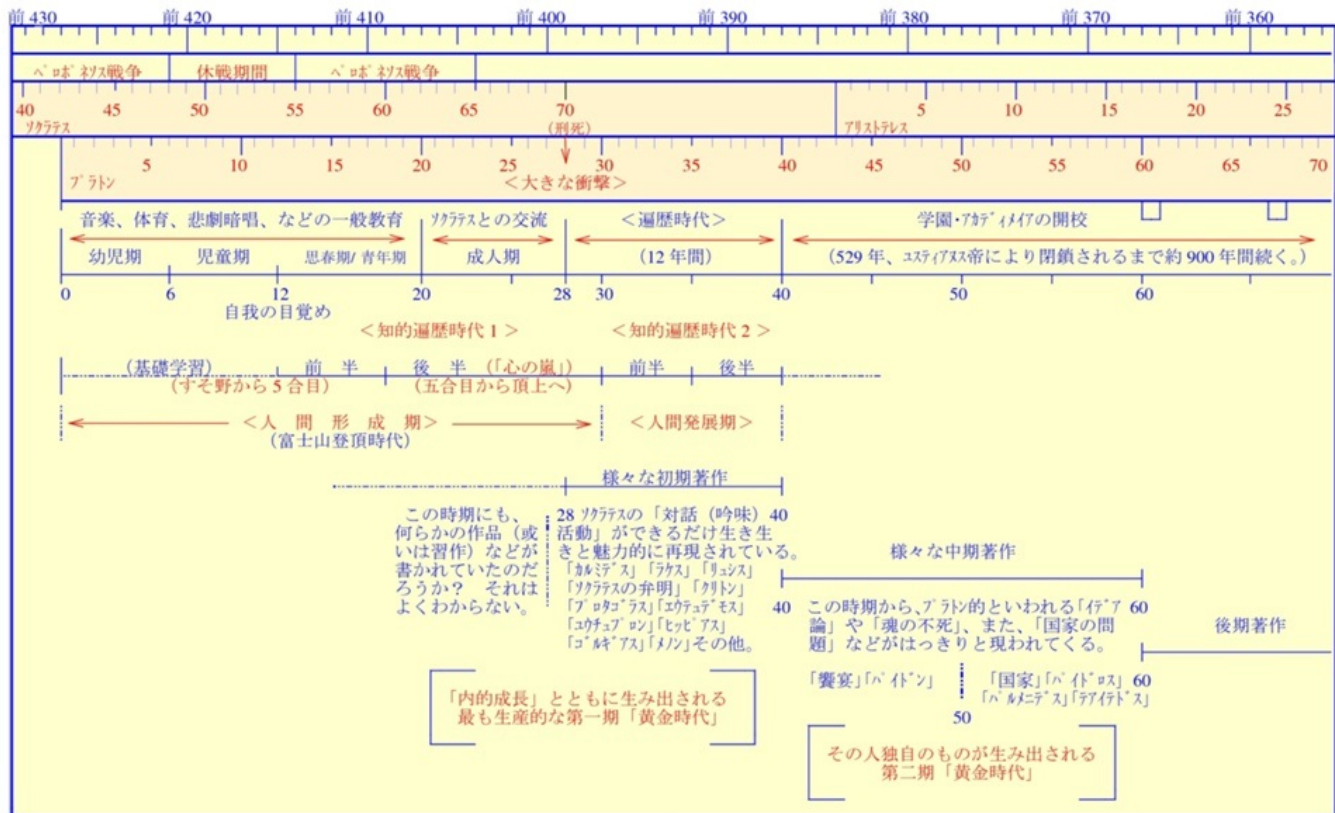
『タイムイオス』
『法律』

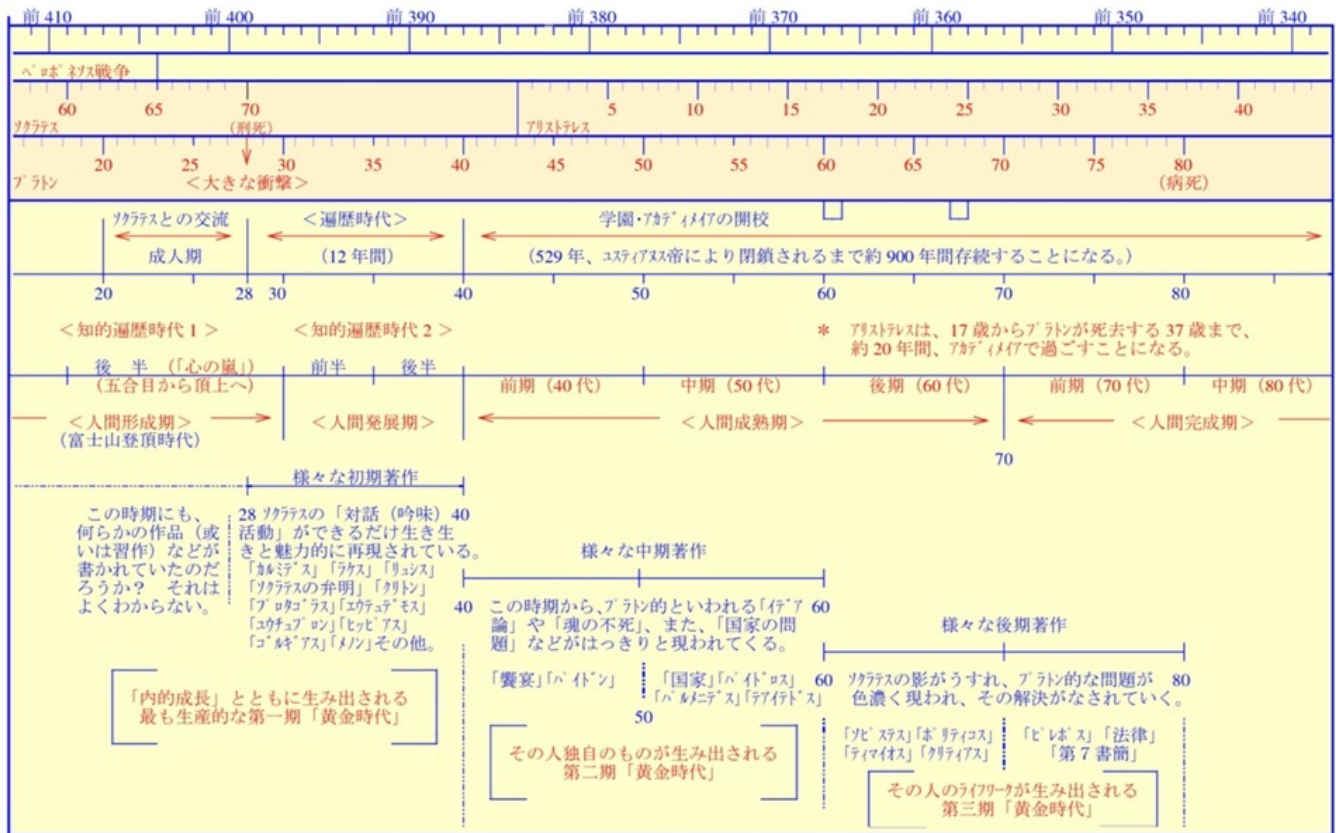
『パイトロス』
『法律』

『パルメテス』
『ソピステス』
『タイムイオス』

『国家』
『政治家』
『法律』







プラトンの「五つの国制」(国家と個人)

個 人		国 家	
	その人の「心のなか」で、例えば、		その国の「国制のなか」で、例えば、
1)	優秀制がおこなわれている。(理性)	1)	優秀制がおこなわれている。(理性)
2)	名誉制がおこなわれている。(名誉)	2)	名誉制がおこなわれている。(名誉)
3)	金権制がおこなわれている。(金権)	3)	寡頭制がおこなわれている。(金権)
4)	民主制がおこなわれている。(自由)	4)	民主制がおこなわれている。(自由)
5)	僭主制がおこなわれている。(独裁)	5)	僭主制がおこなわれている。(独裁)
	内 容		内 容
1)	何よりも真善美を愛し求める。 (「 理知的部分 」に支配されている。)	1)	何よりも真善美を愛する人たち。 (「 理知的部分 」の人たちが支配する国家)
2)	勝利を求め、名誉を愛する。 (「 気概の部分 」に支配されている。)	2)	勝利を求め、名誉を愛する人たち。 (「 気概の部分 」の人たちが支配する国家)
3)	お金を何よりも愛する。(拝金主義) (「 欲望的部分 」の 金欲 に支配されている。)	3)	一部の裕福層(上流階級)の人たち。 (「 欲望的部分 」の中でも 金権 による国家)
4)	何よりも自由と快楽を求める。 (「 欲望的部分 」に支配されている。)	4)	何よりも自由と快楽を求める。 (「 欲望的部分 」の人たちが支配する国家)
5)	何よりも支配と独占を愛する。 (「 気概の部分 」の中でも 僭主独裁 的な人。)	5)	何よりも支配と独占を愛する。 (「 気概の部分 」の中でも 僭主独裁 の国家)
<p>自分の「心の中」が一体どういう体制になっているのかは、自分でもはっきりと認識できるものである。</p> <p>例えば、「欲望的部分」や「気概(激情)的部分」などの支配から離れて、いわゆる「理知的部分」に全面的に支配されて、何よりも「真善美」を愛し求めるような状態であれば、まさに「優秀者制」の人であり、また、「気概の部分」に支配されて、何よりも勝利を求め、名誉を愛するような状態であれば、まさに「名誉制」の人であり、軍隊をはじめ、スポーツ、その他の体育系の人、これに属することになるかと思う。</p> <p>一方、けちで働き者で、必要以外なものは買わず、何よりもお金を愛し求めるような「拝金主義的」であれば、まさに「金権制」の人であり、また、何よりも自由やその時々を生じてくる様々な欲望を貪欲に愛し求めるような状態であれば、まさに「民主制」の人である。最後に、何よりも支配と独占とを愛し求め、仲間や組織に属し、あるいは仲間や組織を従えて、自分に逆らい、敵対する相手を排除し、目的のためにはいかなる手段も辞さないという「無政府状態」であれば、まさに「僭主制」の人になるということである。</p>		<p>プラトンは、「五つの国制」を上げ、その「国制」は、「優秀者制」から「名誉制」、「名誉制」から「寡頭制」、「寡頭制」から「民主制」、そして、「民主制」から「僭主制」へと変化をし、だんだんと悪くなっていくという考え方をしているわけである。</p> <p>そして、「優秀者制」は、ありとあらゆる面で最も優れた人たちが順番に「統治」をする国家であり、また、「名誉制」は、勝利を求め、名誉を愛するような人たちが統治する国家であり、一般的には「軍国主義的な国家」になるかと思う。そして、「寡頭制」というのは、金持ちが支配し、貧乏人は支配にあずかることのできない国制である、ということである。</p> <p>一方、「民主制」は、何よりも「自由と平等」を尊ぶ国家であるので、最も「寛大な社会」となり、ありとあらゆるそやでたためあるいは不正や悪徳などが堂々とまかり通る社会となり、遅かれ早かれ、いわゆる「衆愚政治」(或いは衆愚社会)に深く陥ることになる。そして、「僭主制」は、一部の僭主(独裁者)によって統治され、言いたいこともやりたいことも自由にはできない「恐怖政治」になっていく社会である。</p>	

ソクラテスとプラトンに関する基礎データ図表

<http://p.booklog.jp/book/87313>

著者：如月翔悟 (paidon)

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/paidon/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/87313>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/87313>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ